

2023年10月3日

Press Release

アカマイ・テクノロジーズ合同会社

電気通信大学、Akamai のクラウドサービスで ストレージ長期保存の課題を軽減

[アカマイ・テクノロジーズ合同会社](#)（本社：東京都中央区、職務執行者社長：日隈 寛和、以下「Akamai」）は、[国立大学法人 電気通信大学](#)（東京都調布市、学長：田野 俊一、以下「電通大」）が、[Akamai のクラウドコンピューティング](#)を活用し、ストレージ保存の課題の軽減に取り組んでいると発表しました。

高度な先端科学技術の教育研究機関として知られる電通大は、情報・電気・通信を中核としつつ、物理工学・材料科学、生命科学、光科学、エレクトロニクス、ロボティクス、機械工学、メディアなど、理工学の基礎から応用まで、広範な分野での教育と研究を行っています。

電通大では日々膨大な量の研究データを蓄積しており、今後さらに爆発的に増えていくであろう研究データを長期保存するにあたり、大容量で安価なクラウドストレージサービスが必要と考えていました。複数社のサービスと比較検討する中で、Akamai のクラウドコンピューティングの1ヶ月間無償検証を利用し、Akamai のクラウドコンピューティングの S3 互換マネージドオブジェクトストレージと GakuNin RDM（国立情報学研究所（NII）が提供し、研究者が研究データや関連資料を管理・共有するために利用している、研究データ管理サービス）との互換性の検証を行いました。この検証により、Akamai のクラウドコンピューティングの S3 互換マネージドオブジェクトストレージが GakuNin RDM の S3 互換ストレージとして接続可能であることが確認できたことから、電通大は、同サービスが研究データ長期保存のための選択肢の一つになると考えています。

更なる一歩として

電通大は Linux 系 OS を利用していますが、大きな課題に OS ディストリビューションのライフタイムの終了への対応があります。それをきっかけにアプリケーションのポータビリティの確保のために、Kubernetes (K8s)に着目しています。K8s は、複数のクラウドプロバイダーとオンプレミス環境で動作し、コンテナ化された環境の上でアプリケーションをどこでも実行できるようにすることができるため、ベンダーロックインのリスクを軽減できます。

学内基盤にあるオンプレミス環境で K8s が稼働した際は、将来的に IaaS 基盤とシームレスに繋げたいと考えています。

これが実現できれば、同大はマルチプラットフォームの K8s が有効活用できるようになり、高可用性とコストメリットを最大限に発揮できるだろうと期待しています。



製品の詳細はこちら

<https://www.akamai.com/ja/why-akamai>

<https://www.akamai.com/ja/solutions/cloud-computing>

Akamai Technologies について :

Akamai はオンラインライフの力となり、守っています。世界中のトップ企業が Akamai を選び、安全なデジタル体験を構築して提供することで、毎日、いつでもどこでも、世界中の人々の人生をより豊かにしています。広範囲に分散したエッジおよびクラウドプラットフォームである Akamai Connected Cloud は、アプリと体験をユーザーに近づけ、脅威を遠ざけます。Akamai のクラウドコンピューティング、セキュリティ、コンテンツデリバリーの各ソリューションの詳細については、[akamai.com/ja](https://www.akamai.com/ja) および [akamai.com/blog](https://www.akamai.com/blog) をご覧いただくか、Twitter と LinkedIn で Akamai Technologies をフォローしてください。

※Akamai と Akamai ロゴは、Akamai Technologies Inc.の商標または登録商標です

※その他、記載されている会社名ならびに組織名は、各社の商標または登録商標です

※本プレスリリースの内容は、個別の事例に基づくものであり、個々の状況により変動するものです